使わない!!
無登録(登録外使用)農薬

令和7年産 水稲栽培ごよみ

JAわかやま
平坦地対象

キヌヒカリ・にじのきらめきの栽培ごよみ

月	冬期間	5			6			7			8			9			10			収穫後
旬		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
生育段階		育苗期			活着期		有効分けつ期		無効分けつ期	幼穂形成期 -25	穂ばらみ期 -15	出穂期 0	乳熟期～登熟期		成熟期 +30	+35~40				
作業		塩水選 種子消毒 浸種 播種 元肥			代かき・田植	除草			第一回穂肥	第二回穂肥	防除①		防除②		刈取り(キヌヒカリ)	刈取り(にじのきらめき) 乾燥・調整				稲ワラ処理
水管理		代かき						中干し	間断かんがい					間断かんがい		落水(早期落水は品質低下)				

きぬむすめの栽培ごよみ

月	冬期間	5			6			7			8			9			10			収穫後
旬		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
生育段階		育苗期			活着期		有効分けつ期		無効分けつ期	幼穂形成期 -25	穂ばらみ期 -15	出穂期 0	乳熟期～登熟期		成熟期 +35					
作業		塩水選 種子消毒 浸種 播種 元肥			代かき・田植	除草				第一回穂肥 第二回穂肥 防除①			防除②		刈取り 乾燥 調整					稲ワラ処理
水管理		代かき						中干し	間断かんがい					間断かんがい		落水(早期落水は品質低下)				

ヒノヒカリ・にこまるの栽培ごよみ

月	冬期間	5			6			7			8			9			10			収穫後
旬		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
生育段階		育苗期			活着期		有効分けつ期		無効分けつ期	幼穂形成期 -25	穂ばらみ期 -15	出穂期 0	乳熟期～登熟期		成熟期 +40	+45				
作業		塩水選 種子消毒 浸種 播種 元肥			代かき・田植	除草				第一回穂肥 防除① 第二回穂肥			防除②		刈取り(ヒノヒカリ) 刈取り(にこまる)		乾燥・調整			稲ワラ処理
水管理		代かき						中干し	間断かんがい					間断かんがい		落水(早期落水は品質低下)				

良質米生産のポイント

1. 土づくり
2. 健苗育成
3. 間断かんがい励行
4. 病害虫の適期防除
5. 適期刈り取り

●土づくり対策

●深耕
●生ワラの全量還元
石灰チッソの施用は、耕起時に10a当り20～30kgとする。
水田の乾土効果を高めるため、耕起は12月～2月末までに行う。

土壌改良資材	施用量の目安（10a当り）	
	標準水田	秋落ち水田
農力アップ（ケイ酸 20.0%、苦土 2.0%、リン酸 2.5%、鉄 12.0%）	100kg	140kg

◎ケイ酸の施用効果
・茎葉を強くし、倒伏の軽減や、病害虫に強い株を作る。
・受光体制を良くすることで、登熟歩合を向上させるとともに、乳白米の発生を抑制する。

◎鉄の施用効果
・根を保護し、根腐れ秋落ちの防止、養分吸収の向上に役立つ。

●省力型施肥例

肥料名				施肥量 kg/10a 元肥	成分量 N	P_2O_2	K_2O
キヌヒカリ にじのきらめき	極早生～早生	全面施肥	エムコート489 早生(24-8-9)	45	10.8	3.6	4.0
		側条施肥機		40	9.6	3.2	3.6
きぬむすめ ヒノヒカリ にこまる	中生～晩生	全面施肥	エムコート489 晩生(24-8-9)	45	10.8	3.6	4.0
		側条施肥機		40	9.6	3.2	3.6

●標準型施肥例

肥料名		施肥量kg/10a 元肥	第1回追肥	第2回追肥	成分量 N	P_2O_2	K_2O
標準型	燐加安44号(14-17-13)	40			10.4	8.4	10.0
	太閤(12-4-12)		20	20			

(注) キヌヒカリでは初期分けつを促すため、元肥を一割程度増やしてください。

基幹防除例(全品種共通)

防除時期	病害虫名	防除薬剤	使用倍数(収穫前日数/回数)	10a当たり散布量	備考
収穫後～2月末	ヒメトビウンカ ツマグロヨコバイ スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)	集団一斉耕起			集落単位(10ha以上)で実施する。
5月上・中旬	ヒメトビウンカ ツマグロヨコバイ	集団一斉耕起			3月までに一斉耕起のできない地域(裏作の作付率が高く、休耕田が点在するような地域)では5月に行う。
浸種前		塩水選を励行する			(うるち米の塩水選は、水10ℓに食塩2.0～2.5kg、または水10ℓに硫安2.2～2.9kgとする) 塩水選後水洗いを励行する。
種子消毒	ばか苗病 褐条病 もみ枯細菌病 イネシンガレセンチュウ	テクリードCフロアブル	200倍(1回)	24時間種子浸漬	
		スミチオン乳剤	1,000倍(1回)		
播種時又は播種後	苗立枯病	タチガレン液剤(フザリウム菌・ピシウム菌)	500倍(2回)	1箱当り500㎖	
		ダコニール1000(リゾープス菌)	1000倍(は種14日後まで/2回)		
育苗期	ヒメトビウンカ(縞葉枯病) ツマグロヨコバイ(萎縮病)	畦畔および育苗中の防除 トレボンEW	1,000倍(14/3)		畦畔や周囲の雑草を除草し、育苗箱はできるだけツマグロヨコバイ等のいない場所におく。
田植の3日前～当日	いもち病 紋枯病 ウンカ類 ツマグロヨコバイ ニカメイチュウ コブノメイガ イネミズゾウムシ	スクラム箱粒剤(育苗箱処理)	(1回)	1箱当り50g	
田植直後	スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)	ジャンボたにしくん	(60/2)	1～2kg	代かきは均一にし、田植後はできる限り浅水に管理する。

(1)一般体系防除例(キヌヒカリ・にじのきらめき・きぬむすめ・ヒノヒカリ・にこまる)

防除時期	病害虫名	防除薬剤	使用倍数	10a当たり散布量	備考(散発的防除)
7月下旬 キヌヒカリ にじのきらめき	カメムシ類 コブノメイガ ウンカ類 ツマグロヨコバイ	トレボンEW	1,000倍(14/3)	150ℓ	◎いもち病、紋枯病発生のおそれがある場合は、アミスターエイト1000倍(14/3)を散布(加用)する。
7月下旬 きぬむすめ 7月下旬 ヒノヒカリ・にこまる	カメムシ類 コブノメイガ ウンカ類 ツマグロヨコバイ	トレボンEW	1,000倍(14/3)	150ℓ	
	いもち病 紋枯病	アミスターエイト	1,000倍(14/3)		
8月中旬(乳熟期) キヌヒカリ にじのきらめき 8月下旬(乳熟期) きぬむすめ 9月上旬(乳熟期) ヒノヒカリ・にこまる	カメムシ類 [ウンカ類 ツマグロヨコバイ]	スタークル顆粒水溶剤 ※カメムシ類の多発が予想される山間部などの地域は、乳熟期の防除7日～10日後に、もう一度防除を行ってください	2,000倍(7/3) [3,000倍(7/3)]	150ℓ	◎乳熟期とは穂が出揃い傾きかけた頃です。 ◎コブノメイガの発生が見られる場合は、ロムダンゾル1,000倍(21/2)を混用してください。 ◎乳熟期以降にトビイロウンカの発生がある場合はエミリアフロアブル1000倍(7/2)を散布してください。

除草剤使用基準　稚苗移植栽培(10a当り使用量)

◎田植同時・一発処理
エンペラー1キロ粒剤
移植時または移植直後～ノビエ3葉期ただし収穫60日まで(1回)　1kg

◎省力一発処理
サラブレッドKAIフロアブル
田植直後～ノビエ2.5葉期ただし移植後30日まで(1回)　500㎖

◎超省力一発処理
エンペラージャンボ
田植直後～ノビエ3葉期ただし移植後30日まで(1回)　25g×10個

一発処理後とりこぼし雑草がある場合（10a当り）

◎サンパンチ1キロ粒剤1kg（湛水散布）
移植後15日～ノビエ3.5葉期
但し収穫60日前まで／1

◎クリンチャーバスME液剤（落水散布）
移植後15日～ノビエ5葉期
但し収穫50日前まで／2
薬量1,000㎖／希釈水量70～100ℓ

※除草剤使用上の注意点

① 藻類、ウキクサ類の多発田では通常除草剤使用前にモゲトン粒剤3kg／10a(45/3)を施用する。
② 圃場は均平に努め、代かきはていねいにする。
③ 水管理に注意し、3～5cmの湛水状態で散布して、1週間程度は落水しないようにし、かけ流しや田面の露出はさける。
※ジャンボ剤については、5cm以上の湛水状態で散布する。
④ 漏水田では特に除草剤の使用に十分注意する。

(2)豆つぶ体系防除例
(キヌヒカリ・にじのきらめき・きぬむすめ・ヒノヒカリ・にこまる)

防除時期	病害虫名	防除薬剤	10a当たり散布量	備考
7月中～下旬 キヌヒカリ にじのきらめき 7月中～下旬 きぬむすめ 7月中～下旬 ヒノヒカリ・にこまる	いもち病 紋枯病 ウンカ類 カメムシ類	ワイドパンチ豆つぶ	250g(35/1)	使用時は湛水状態を保ち、散布後1週間は落水しないでください。吸湿性の為、濡れた手での作業や、降雨時の散布を控えてください。ワイドパンチ豆つぶ散布後に高温が続くと、葉に斑点が生じることがありますが、生育への影響はありません。
8月上旬 キヌヒカリ にじのきらめき 8月中旬 きぬむすめ 8月下旬 ヒノヒカリ・にこまる	カメムシ類 ウンカ類 ツマグロヨコバイ	スタークル豆つぶ	250g(7/3)	

特殊病害虫

防除時期	病害虫名	防除方法
―	もみ枯細菌病	出穂時の高温・降雨で感染するおそれがあるため、種子更新及び種子消毒の徹底を行う。
乳熟期以降	トビイロウンカ	収穫期前の水田で、坪枯れ症状を起こす。防除薬剤が株元にしっかりかかるよう株間を広く取ることが有効。発生が多くみられる場合は、エミリアフロアブル1000倍(7/2)を散布する。

重要病害虫防除

防除時期	病害虫名	防除方法
出穂～乳熟期	斑点米カメムシ	・カメムシの越冬対策として、冬場から圃場周辺の雑草を除草する。 ・畦畔や周囲の雑草を除草する。 ※6月上旬から出穂2週間前までに除草を徹底して行い、カメムシのすみかを無くす。 その後カメムシの水田内への飛び込みを防ぐために、収穫2週間前までは除草を控える。 ・出穂期～乳熟期に薬剤を散布する。 ミナミアオカメムシ トゲシラホシカメムシ アカスジカスミカメ
出穂期以降	紋枯病	上位葉への発病が見られる場合、バリダシン液剤5 1,000倍(14/4)を株元にかかるよう丁寧に散布する。

農薬(毒物・劇物)の購入には必ず印鑑を!! 農薬散布は必ずマスク・防除衣を着用しよう。

防除の際は飛散(ドリフト)に注意しましょう。防除記録は必ず記帳しましょう!

※栽培履歴は忘れず記帳!!
※品質アップは種モミの更新から!!

◎農薬の使用基準は変更になる場合があるので注意しましょう。
◎農薬使用基準を守り、適期適正防除を行いましょう。

令和6年11月現在
海草振興局農林水産振興部
農業水産振興課監修